



やらばりちよっとマニアックだった

土壌生物研修会報告

平成 28 年 12 月 3 日（土）北本市の自然学習センター内の雑木林に怪しげな 17 名の集団が…。シャベルを手に落葉をかき分け、一心不乱に地面を凝視している。彼らは何をしているのか？そう、カニムシを探しているのです。

講師の高野さんの話。「落ち葉の下には有機物をせっせと分解して土を豊かにし、自然環境を根底から支えている多くの生き物たちが棲んでいます。そんなところにも食う、食われるの土壌生態系が存在します。もちろん大きなムカデなどもありますが、大きさ 4～5 ミリほどの大きさながらりっぱに捕食者として存在するムシがいます。それがカニムシです」と言って見せてくれたスライドがこれ！アカツノカニムシ。カッコイイ～！

室内での基本的な講義を聞いた後、さっそくフィールドに出て実地研修に励んでいるのが上の写真です。（中央の白衣姿が高野さん）

現地研修ではさわりを学んだだけで、実際にはその場所の土壌をバケツ 8 杯ほど持ち帰り、室内で顕微鏡を使ったハンドソーティングによる本格的な生き物探し。バットに土壌を広げ、左手に虫眼鏡、右手にピンセットを持ち、動くものはないかと集中して搜索に当たる。沈黙の世界の中で作業は進む。「アッいた！」の声。アルコールを含んだ水を張ったシャーレに入れて顕微鏡で覗く。なんだワラジムシかぁ、とか、オッ、トビムシがいたとかで 1 時間くらいはあっという間に過ぎてしまいます。残念ながらカニムシは出なかったのですが、本日確認できたのは、「土壌動物を用いた『自然の豊かさ』評価（青木、1995）」による A グループ（5 点）では、オオムカデ、陸貝、ヤスデ、ジムカデ、ヨコエビ、ヒメフナムシで 30 点、B グループ（3 点）では、ミミズ、ナガコムシ、イシムカデ、シロアリ、ハサミムシ、ワラジムシ、ゴミムシ、カメムシ、甲虫で 27 点、C グループ（1 点）ではトビムシ、ダニ、クモ、ダンゴムシ、ハエ・アブ、アリ、ハネカクシで 7 点、合計で 67 点となり、自然学習センター内雑木林は「自然がよく保たれた自然林や神社林」の評価を獲得することができ、めでたしめでたしで研修会を閉じたのであります。

（事務局 金子）

